

夢想兵衛胡蝶物語後編

四

~ 13
3658
9



13
365
9

夢想兵衛胡蝶物語後編卷之四

東都

曲亭馬琴戲編

歡樂郷

この段殊小老実中て全部の大意を述べ
謝する所の欠と見飲との他作者の意を述べ

故びと求るもの人の阿ると好と樂と求るものハ教の長を多し。夫教ハ長く
ぞ。まを長バその財竭く。欲ハ從小まづらび。まを從小まれば禍を惹く。志
満べからば。まを満まハ倍み諱る。樂ハ極むらび。まを極むれば哀を味する。
教をバ省くべ。欲ハ寡かづ。志ハ艱くべ。樂をバ忘るべ。人その樂を止めばその
樂も場も正あり。樂も場て哀も味ぶ。樂も小まればとほ。とかく出くる憂
兵衛ハ哀傷御あり。あはれども怪し。少年小説破られ。酔るがごとく。醒るがごとく。
亦彼紙鳶ふうち。喜怒哀樂の國境盛衰山とらち。裁せ。別々の世
界あり。名つけて。飲樂郷といふ。哀傷々の隣。困めて。哀山小背。盛山小向。その



夢想兵衛後編卷四

山水世小勝。好風好景比。彼仁者。乐山。智者。乐水。亦如。此。人。
眩と曲て枕と。樂む人も。さあ。これ。國王の。亦と。賢と。用ひ。伎と。遠と。
色と。好ま。酒と。嗜ま。仁も。居ると。忘。さ。さ。如く。民と。視。さ。子。の。如く。
用ると。大海の。百川と。容。さ。さ。思と。施。さ。と。甘。両の。万。物と。さ。さ。
と。布。さ。さ。牙の。亦。さ。さ。國。治。りて。民。安。く。風。條と。鳴。さ。さ。
壞。さ。さ。五穀。豊。稔。穂。小。穂と。さ。さ。酷。吏。る。賊。民。み。耕。さ。さ。
讓。り。政。ゆ。り。の。道。と。讓。り。人。の。親。と。て。人。の。慈。さ。さ。人。の。子。と。て。
兄弟。ハ。莫。逆。さ。さ。妻子。ハ。和。合。親。族。ハ。睦。睦。一。く。朋友。ハ。信。あり。市。賈。ハ。貳。價。
せ。購。り。の。も。又。直。減。ら。さ。さ。凡。と。結。ば。ぬ。安。れ。の。職。人。さ。さ。
拂。ひ。の。檀。那。ひ。風。俗。と。て。質。朴。さ。さ。少。さ。の。長。さ。さ。富。さ。さ。
符。の。ハ。不。結。と。あり。さ。さ。健。る。の。ハ。病。り。の。と。及。抱。一。さ。さ。貨。と。惜。ま。さ。さ。

叙くも。仁と。さ。さ。と。さ。さ。の。陰。德。と。積。む。と。と。さ。さ。と。遠。さ。も。
近。さ。も。風。と。陰。と。隣。國。ハ。臣。附。虫。蛇。ハ。未。貢。獸。ハ。麒。麟。の。も。小。鳳。凰。あり。
木。小。連。理。の。草。小。靈。芝。あり。甲。冑。ハ。兵。庫。小。積。も。軍。器。ハ。亦。あり。獄。舎
ハ。僅。小。刑。と。さ。さ。罪。人。と。さ。さ。一。人。も。み。さ。さ。内。聖。外。王。の。亦。さ。さ。
され。バ。又。大。臣。の。政。と。執。る。の。も。理。亂。の。道。と。さ。さ。さ。さ。さ。
む。小。一。膳。小。箸。と。擲。て。吐。く。さ。さ。さ。さ。結。び。く。け。さ。さ。
を。迎。へ。四。時。の。気。候。と。さ。さ。農。業。と。さ。さ。蚕。飼。と。さ。さ。
堯。舜。小。の。と。紙。り。て。亦。さ。さ。下。の。三。司。百。官。職。を。守。り。て。私
る。の。も。其。の。位。を。安。く。業。を。樂。む。の。の。さ。さ。貴。賤。さ。さ。
晦。日。の。修。羅。道。も。年。内。も。顔。色。和。悦。備。さ。さ。の。の。時。と。さ。さ。
よ。持。系。し。て。人。小。返。と。亦。さ。さ。驟。雨。の。番。傘。霄。閣。の。桃。灯。も。貸。下

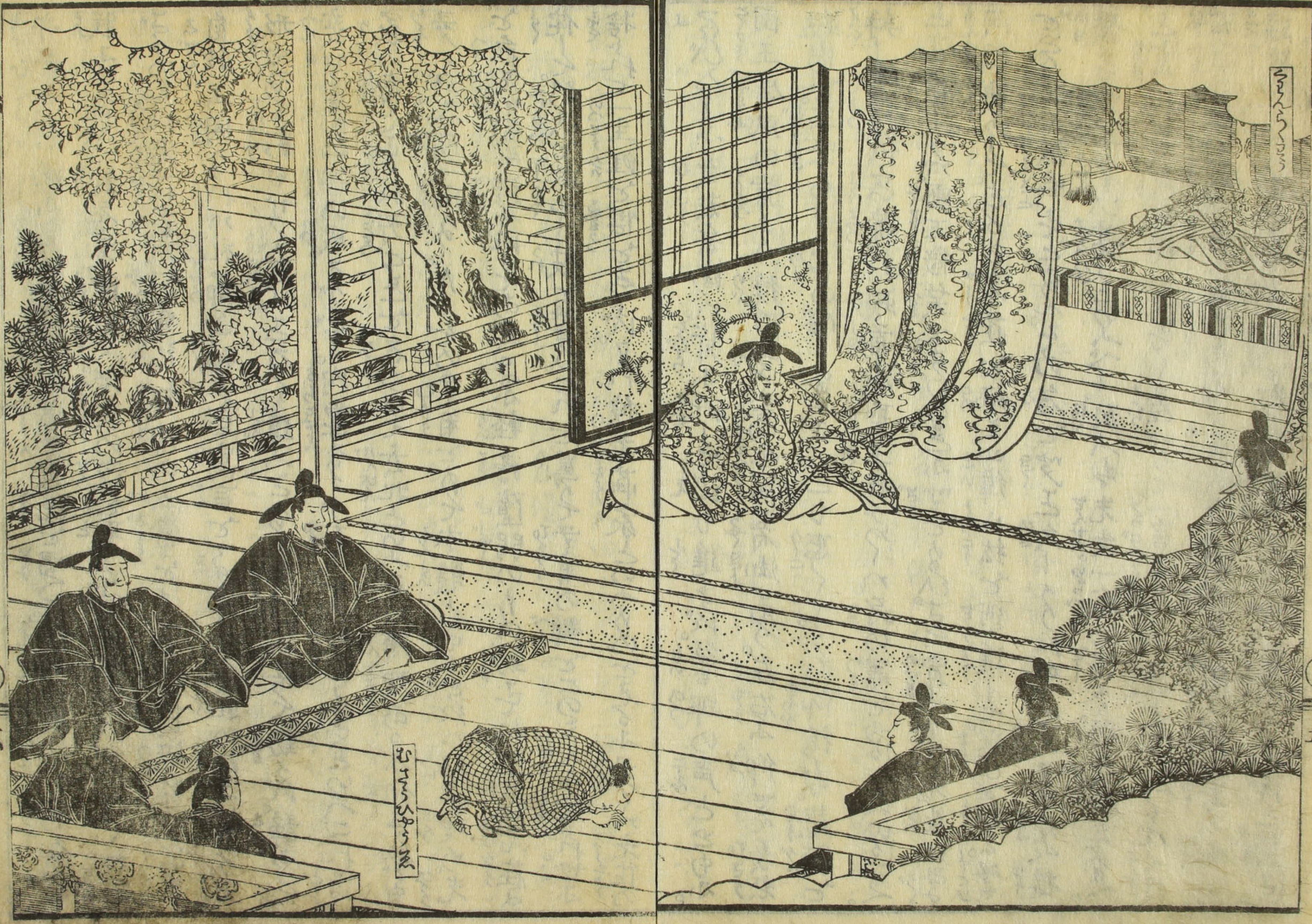
古今事類考卷之四

されふにのり。残ありのの残を散じて。残と積むるとよし。足らざる
 のの油断るく挿して人さうふらぬを樂と。主の家隸の能不能とえ。こ
 それふ憐れ難ふをよと。拾銀のやとをよとせ。親の子小教へ導かれ
 善人小志とてあづる。疾樂とて義服と被せ。花は小装せ。後氣
 ふ志とて。物見清ふつと。出るとよとせ。子ハ親同胞小孝悌をそして。親同
 胞小飲る。疾樂とて。或の友を集め。或の夜遊び。小出るとよとせ。婦ハ夫
 小齊眉て。操節平く。よく内を治るとよとせ。衣裳強以。残を費し。
 女児の敷入小假托て。哥舞伎。認めよとよとせ。朋輩ハ隔る。断金の
 支じて。徳練らうとよとせ。友ハ。親教ふ。カハ。王とまう。神主ハ初穂乃
 母とを樂とせ。只氏子の為小丹精と抽て。この福を祈ると樂とせ。と
 りて初穂まう。和尚ハ又布施のまるとよとせ。檀那の為小流経とせ

手とよとせ。ゆきよ。ものづら。布施まう。医師ハ病家の貧福と。茶礼の軽
 重と。えと。ま。方と。えと。茶と。擇む。病と。愈と。疾。ま。と。よと。せ。五節供
 小茶礼まう。凡文武の師。つるの。二季の謝茶と。ま。と。よと。せ。と。く
 教。育。く。道。を。傳。へ。業。を。授。む。と。樂。と。よと。せ。ゆ。き。小。名。實。四。海。小。溢。ま。て。ま
 ぶ。り。の。の。り。子。子。ハ。その。藝。小。お。び。て。才。小。溢。る。と。樂。と。せ。と。只。其。言。仍
 と。慎。し。師。を。教。ひ。化。を。排。ら。ざ。ると。よと。せ。と。只。その。よ。し。所。お。の。く。お。ほ。く。は。ん。は。ん
 と。い。ども。五。常。の。道。小。違。ふ。の。る。は。れ。ば。ま。ま。あ。ま。う。あ。つ。て。哀。ま。る。く。ま。び
 あ。ま。う。の。ま。ま。の。憂。み。か。る。國。ハ。生。む。る。畜。生。ハ。畜。生。相。殺。の。ま。ま
 あ。れ。ども。馬。ハ。轡。と。外。に。踏。る。と。疾。ま。と。せ。と。人。と。繋。り。物。と。負。ひ。あ。ま
 ら。く。の。駄。賃。と。ま。ま。と。よと。せ。と。牛。ハ。角。と。あ。り。ま。う。て。人。と。突。と。ま。ま。と
 せ。と。車。と。ひ。た。て。山。阪。と。上。下。し。主。の。為。小。挿。る。と。ま。ま。と。犬。ハ。門。を。成。す。賊。を。防

ども。疾りつ足みの端ごとく。爰忠兵衛の忽地。顔色土のどく変り。
 只阿唯とと驚く。獲てのそがしつ。王城へ誘引せしむ。城門三つむら
 とさる。小門下。器械とちり。護る。の礼儀正して。ものづから上。國乃風
 あつら。既正殿。とちり。宮舎。の松皮。昔。て。門。扇。不。漆。せん。
 税。画。く。バ。鳩。尾。小。彫。せ。て。布。承。塵。と。伊。豫。簾。う。け。は。して。多。ひ。の外。は
 つら。ひ。る。上。代。の。容。る。れ。ど。脊。と。敷。と。て。犯。と。る。由。あ。ら。ば。ん。毎
 小。感。涙。と。拭。の。ど。と。い。こ。る。け。ま。が。爰。忠。兵。衛。の。い。や。う。と。い。く。マ。な。り。
 ま。て。う。治。る。この。聖。徳。と。感。佩。一。彼。官。人。亦。が。後。方。小。跟。と。て。飲。楽。殿。へ
 参。り。ふ。け。ま。官。人。亦。ハ。恭。しく。爰。忠。兵。衛。と。お。て。参。れ。る。り。と。ぞ。え
 あ。げ。う。か。て。三。百。官。忌。止。す。く。ち。の。袖。と。列。後。儀。と。堂。々。光。景。ハ。威
 あ。つ。て。固。く。猛。く。ば。時。小。衣。冠。の。人。階。下。小。臨。と。遠。来。の。客。こ。る。こと。

よ。び。入。り。ふ。爰。忠。兵。衛。ハ。背。小。汗。く。び。中。進。ま。ば。警。蹕。の。声。と。とも。小
 國。王。屏。風。の。背。より。後。り。出。く。高。坐。小。著。脚。あり。左。右。小。仰。せ。爰。忠
 兵。衛。と。玉。坐。ち。り。石。の。海。の。い。よ。い。と。も。思。く。て。う。ち。仰。後。と。龍。顔。を
 拜。一。車。も。な。ら。ば。只。膝。の。頓。首。と。聖。王。移。り。の。身。の。罪。と。も。し。の。ゆ。じ。り。
 と。ま。う。せ。う。が。國。王。微。笑。て。ま。づ。直。小。吐。せ。の。ひ。は。と。宣。ふ。や。う。先。生。の。學。
 問。廣。博。し。く。ま。つ。も。老。莊。を。好。む。四。律。八。絃。を。逍。遙。と。選。ひ。を。叙。ふ。ゆ。え
 と。あ。つ。く。教。諭。と。と。る。ん。その。名。を。聖。王。と。い。う。れ。か。て。又。こ。が。國。へ。接
 歴。と。宣。ふ。幸。ひ。甚。し。と。い。へ。り。那。入。ち。先。生。一。言。を。惜。ま。ず。け。て。教。え。の。い。
 と。宣。へ。ば。爰。忠。兵。衛。ハ。ま。ま。く。羞。の。り。て。一。言。半。句。も。言。は。な。さ。ず。三。司
 百。官。笑。ひ。を。忍。び。速。小。勅。答。あ。ら。び。失。教。あり。と。促。せ。ば。國。王。亦。左。右。小。仰。て。
 遠。遊。の。人。の。い。ま。ま。こ。が。國。の。捷。と。ま。ら。ば。驚。と。と。る。り。ば。驚。と。と。る。り。ば。と。禁。は。



亦多悲兵燹小宣入や。先生道家の説を唱て。彼此の國信を諭るがら。朕あつて教えざる。朕も又老莊の説を取らざる。只ふくは好ぶるもの。凡老莊家ハ仁義礼智信の五常をりて先儒の迹をて。只其自修小因るれば。礼節を拘らざる。寓言をりて。玄牝の門を搥る。夫形もる。彩もり。逆もる。違もる。昇もる。居もる。動もる。静もる。變ぜど。かの言の成るがごとく。内虚るがなふ。その形をえざる。これ道家の旨とて。於野。道と名づけて。玄牝とる。その辨理ある。小修れば。多く人問ふ用る。り。その用とめて。本體とる。これハ彩を埋め。光と包も。のりて。清く。白く。あつて。不軽薄。墮弱のみの。動され。言を老莊は。侘く。矜状を放ち。彼と譽る。これを罵る。子尹の辨をり。人小捨れ。世小捨れて。生涯を悞とる。彼。これ。彼老莊家とる。めとる。不。多く。老莊の

實物もて。真の老莊家ハ稀る。が。國ハ由とあつて。先王の道を改め。朕祚を兼し。た。め。堯舜大禹成湯文武の迹を慕ひて。その迹を踐。その政を紹く。大臣有司。亦。又。臯陶伊尹周公の迹を慕ひ。其迹を紹て。朕を佐む。といふ。は。が。強めて。國人。亦。又。良民の迹を慕ひ。その迹を紹て。奸悪不善を。り。の。は。夫仁義礼智孝悌忠信ハ。聖人の所能る。且。聖人。既。不。没。く。の。只。その。迹。を。慕。ひ。て。五。常。八。紘。を。除。け。去。る。と。此ハ。万。民。慈。を。次。ふ。り。て。思。を。忘。れ。去。る。狐。狸。の。魅。を。去。り。て。虎。狼。の。噬。を。去。り。て。智。ある。ハ。愚。ある。を。欺。き。強。き。ハ。弱。き。を。挫。ぐ。亦。彼。鷹。鷂。の。類。を。教。む。が。ごとく。虫。蜂。の。人。を。蠱。が。ごとく。蛇。の。禽。獸。亦。等。し。れ。禁。む。る。不。う。は。拒。る。の。案。山。子。を。捨。て。よ。く。鳥。を。追。ふ。り。の。あ。ら。ん。や。志。る。る。虚。を。を。き。む。り。の。ハ。仁。義。を。聖。王。先。儒。の。迹。に。て。取。ら。ば。只。自。修。小。因。る。と。を。説。の。と。説。と

夢林心集補行録卷四

ひとむけの稀なる不用ひらまじきとまりつもの仁義の罪人と
 ろのりまへいと思ひある所為るるべき也。譬ふ法帖へ古人の手の跡なり。
 まるれども後人こと其習ふと死へ。その皮骨不入りの琴。儒道も又
 如此る。こと聖人の迹といふとも。學ぶへの道と極めて聖人の皮骨
 不入りるん。國幸ひ小聖人の迹を傳へく。聖人の迹と楽しむ。先生と
 辨と樂と只管小辨と楽しむ。悦とこと儒もあらん。仏もあらん。瞽家
 と威を張りて樂とを。その樂と。つがれん。悦とせん。大約辨悦を好むりの
 人と誅されば。力ありの難ふ臨むれば。陣法とよくする。その
 人誅されば。智ありの必慮と費むれば。その樂とよくする。亦有用
 のるふれども。その弊と。殊とあるを。智恵ありとのとも。好
 て思慮と費むれば。其の敗れ。辨悦と好むとも。人と誅むれば。德と傷り。力

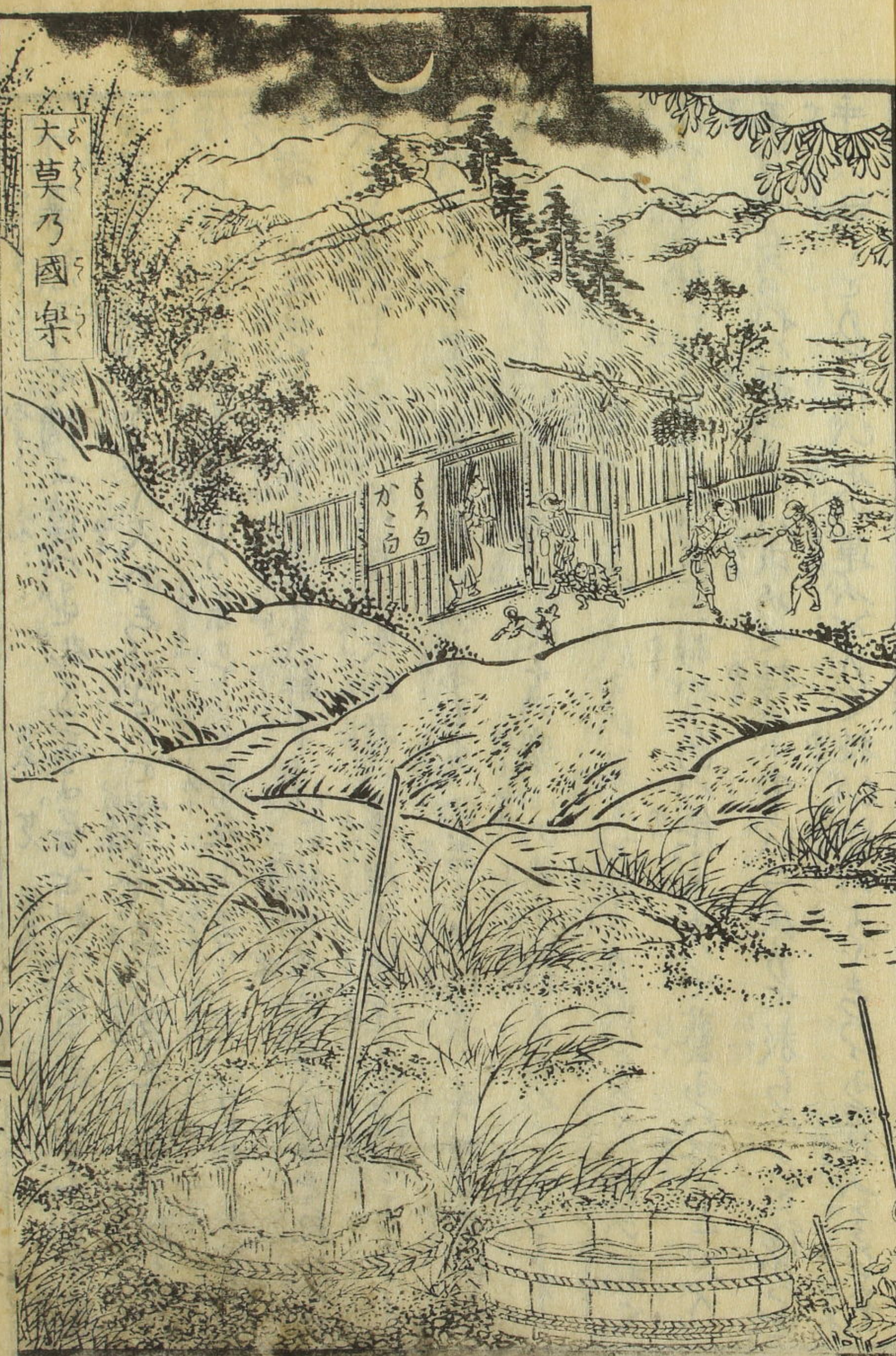
あつとつとも。難ふ臨むれば。危く。陣法とよくする。其の敗れ。必危く。
 のぞくる。其の樂と。其の弊と。殊とあるを。智恵ありとのとも。好
 るふ。其の樂と。其の弊と。殊とあるを。智恵ありとのとも。好
 樂むりの。深山小入り。大澤又臨む。風波と托せども。身の危れと多む。糸井
 と樂むりの。艶曲ふ。後して。家業の化ふる。と多む。風流と楽しむの。
 危ふ。其の樂と。其の弊と。殊とあるを。智恵ありとのとも。好
 器古書畫とありめて。其の樂と。其の弊と。殊とあるを。智恵ありとのとも。好
 其の樂と。其の弊と。殊とあるを。智恵ありとのとも。好
 好色して。其の樂と。其の弊と。殊とあるを。智恵ありとのとも。好
 と多む。其の樂と。其の弊と。殊とあるを。智恵ありとのとも。好
 あらば。君子の道。小人の教。孔子の仁義。老子の

虚無と楽と。釋迦ハ寂滅と。ホモ黒土が儉揚が愛と。ホモ其のホモ又ハ
流あるがれておるが。うらぶといふ。古人のホモと。ホモをりて。ホモと。ホモもの
稀る。李斯ハ秦の悪と。傳ると。ホモと。高ハ君と。裁と。ホモ。王莽ハ
邪と。ホモ。蔡邕ハ痲癖と。食ハと。ホモ。艾子ハよく忘る。ホモと。ホモ。王
之猷ハ竹と。植ると。ホモ。陶弘景ハ松風と。ホモ。林和靖ハ鶴と。放と。ホモ。成
楽と。毛宝ハ龜と。放と。ホモと。杜甫と。李白ハ詩と。ホモ。人磨赤人ハ
和歌と。ホモ。杜預ハ左傳と。注と。ホモと。ホモ。契沖ハ万葉と。解と。ホモと。
ホモ。長明ハ卜居と。ホモ。元政ハ鶴と。ホモと。ホモ。かる頼ハ。みくも。あふ。人の
ホモ。量るれども。悪と。ホモ。ホモ。のハ。善と。ホモ。の。よく。多く。詩歌と。ホモ
のハ。経済と。ホモ。の。よく。多く。風流と。ホモ。の。ハ。閑雅と。ホモ。の
よく。多く。危き。楽ハ。の。ハ。安きと。ホモ。の。よく。多く。と。と。て。ホモと。

いふ。と。の。よ。かる。雲。の。く。子孫。孝順。め。家。不。折。る。徹。く。衣
耕。て。食。ふ。と。は。人間。最。上。の。樂。と。い。ふ。べ。い。かる。ホモと。ホモと。せ。む。
と。を。好。む。酒。ハ。濁。々。と。ホモと。ホモ。不。忠。不。孝。不。義。と。り。家。と。追。れ。
家。と。失。ひ。負債。を。債。ら。返。て。苦。さ。ふ。う。ら。ぬ。所。何。と。志。す。妻。子。ハ
愧。と。遺。さ。り。の。り。親。と。欺。さ。又。代。と。欺。さ。う。ろ。づ。偽。り。て。調。は。れ。金。の
お。て。債。ら。返。さ。ら。る。が。ら。情。慾。の。す。か。か。り。お。只。一。夜。お。き。ひ。失。ひ。て。
ら。且。と。ホモと。と。ら。た。れ。ハ。その。ホモ。つ。づ。く。あ。つ。る。進。む。と。退。く。と。を。さ。る。が。の。の
ハ。暴。虎。馮。河。の。ホモ。小。死。と。かる。人。と。ホモ。を。共。お。ま。か。し。兼。好。法。師。の
の。び。ぢ。や。神。社。仏。閣。の。り。と。く。猪。の。小。祭。禮。會。日。の。糸。の。ぬ。も。は。し。群。集。の。中
あ。の。醉。狂。の。の。の。の。あり。老人。女子。ハ。殊。と。り。と。く。う。ら。む。と。つ。の。の。信。心。と。と。死
癡。る。且。バ。神。仏。へ。系。と。と。と。稱。と。祭。の。曹。官。會。日。と。と。旨。と。大。々。と。と。も

那^ねら^らた^たと^とぢ^ぢあ^あり^りて^て人^{ひと}ふ^ふ相^あ結^むふ^ふり^りの^の人^{ひと}の^の側^{かた}ふ^ふ人^{ひと}る^るた^たら^らを^を伺^うひ^ひ閑^い室^{むろ}よ^よ入^い
て^てこそ^{こそ}あ^あら^らふ^ふ紙^{かみ}の^のと^とあ^あゆ^ゆる^るふ^ふ神^{かみ}仏^{ぶつ}へ^へあ^ある^るの^のす^すえ^えと^とて^と糸^{いと}清^{きよ}き^き日^ひと^とえ^えま^ま
群^{ぐん}集^{じつ}ふ^ふ押^おま^まく^く給^{たま}ふ^ふお^おか^かは^は懐^{なつか}の^の物^{もの}と^とあ^あれ^れと^とて^と念^{ねん}と^とく^くる^るの^の由^{よし}念^{ねん}が^が多^{おほ}
し^しる^る神^{かみ}明^{あきら}仏^{ぶつ}陀^だの^の著^{あき}明^{あきら}る^るも^も投^なる^る塞^{さい}残^{ざん}ふ^ふ目^め面^{めん}の^のふ^ふく^くて^て凡^{おほ}夫^{おと}の^の所^{ところ}成^{なる}
教^{くわう}を^をけ^けは^はば^ば安^{やす}ら^らが^がた^た。迷^め惑^{わく}の^のふ^ふぐ^ぐ。あ^ある^ると^とた^たへ^へ神^{かみ}諸^{しよ}も^も寺^{てら}ま^まり^りも^も危^{あや}
ま^まと^と忘^{わす}れ^れま^ます^す。安^{やす}ら^ら紙^{かみ}求^{もと}め^め信^{しん}心^{しん}と^と假^{かり}托^{たく}よ^よ果^{くわ}を^を取^とる^るの^のと^とま^まら^らあ^あれ^れと^と身^みの^の
糸^{いと}紙^{かみ}首^{くび}と^とて^とも^も神^{かみ}へ^へ結^む。仏^{ぶつ}へ^へ糸^{いと}あ^あら^らえ^えと^とあ^あら^らふ^ふ紙^{かみ}又^{また}その^{その}中^{なか}へ^へ糸^{いと}あ^あら^らる^るま^まぢ^ぢ
禍^{わざ}を^を持^もつ^つて^て福^{ふく}ぢ^ぢも^もあ^あら^らふ^ふ。神^{かみ}仏^{ぶつ}の^の擁^{よう}護^ごも^もあ^あら^らふ^ふけ^け且^{かつ}ど^ど僅^{わずか}は^は三^{さん}千^{せん}の^の海^{うみ}魚^{いそ}王^{おう}餘^{あま}
魚^{いそ}あ^あら^らんと^とあ^あら^らんと^とて^と元^{もと}船^{ふね}と^と漕^こぎ^ぎう^うて^て風^{かぜ}波^{なみ}の^の難^{がた}と^と忘^{わす}れ^れま^ます^す。四^し五^ご井^{せい}の^の蛤^{かき}蚶^{かき}を^を
踏^ふん^んと^とし^し。五^ご里^りの^の干^い写^うふ^ふ日^ひと^と暮^くら^ら一^{いつ}釜^{かま}の^の菌^{きの}一^{いつ}袋^{ぶくろ}の^の果^{くだもの}と^と拾^{ひろ}む^むんと^とて^と野^の山^{やま}
ふ^ふの^のう^うて^て猛^{もう}獣^{じゆ}の^の牙^はふ^ふら^らひ^ひら^らと^と人^{ひと}と^と忘^{わす}れ^れま^ます^す。只^{ただ}時^{とき}愆^{しん}の^の果^{くだもの}も^もふ^ふ命^{いのち}と^と惜^{あは}ま^ま

さ^さら^らり^りの^のと^とま^まは^は極^{ごく}め^めて^て危^{あや}し^しと^とい^いども^{ども}。あ^あら^らふ^ふ幸^{さい}あ^あら^らふ^ふ。腹^{はら}も^もあ^あら^らふ^ふ。
或^{ある}の^の財^{さい}を^を好^{この}み^み。利^りと^と索^{さが}て^て貪^{あま}ま^までも^も飽^あと^とと^とま^まら^らず^ず。邪^{よこ}智^ちを^を逞^{たくま}しく^く法^{はふ}を^を犯^{おこ}
人^{ひと}と^と經^あて^て罪^{つみ}せ^せら^られ^れ。或^{ある}の^の淫^{えん}酒^{しゆ}の^の為^{ため}ふ^ふ又^{また}祖^そ相^{そう}傳^{でん}の^の家^{いえ}業^{ぎやう}と^と失^しひ^ひ。世^よの^の則^{のり}も^も
ども^{ども}劣^{おと}る^る。九^く尺^{じやく}二^に間^まの^の棟^{むね}割^{わり}ふ^ふ。向^{むか}布^ふま^まら^らぬ^ぬ古^{ふる}席^{せき}薦^{せん}布^ふと^と起^{おこ}卧^ふされ^れと^と一^{いつ}
舛^さ采^{さい}は^はあ^あら^らふ^ふか^かふ^ふ買^かひ^ひな^なて^て客^{きやく}あ^あら^らふ^ふと^と死^しへ^へ隣^{りん}く^くら^ら茶^{ちや}を^をま^まて^て同^{どう}と^と合^あせ^せ紙^{かみ}の^の
漏^{ろう}罅^{あひ}は^は寒^{さむ}い^い夜^よと^と凌^{しの}ぎ^ぎま^ます^す。紙^{かみ}の^のふ^ふら^らふ^ふ夏^{なつ}虫^{むし}の^の蚊^{あひ}と^と防^{かま}げ^げども^{ども}悞^{あや}と^と悞^{あや}と^と悔^{くわい}
も^もせ^せじ^じ。この^{この}牙^はあ^あら^らふ^ふと^とい^いふ^ふた^た。柳^{やなぎ}巷^{ちやう}の^の糸^{いと}も^もふ^ふ花^{はな}と^とう^うせ^せ頃^{ころ}城^{じやう}ら^らひ^ひま^ま駈^かの^の
財^{さい}と^と遣^やひ^ひ失^しひ^ひも^も一^{いつ}生^{せい}の^のゆ^ゆと^とこ^こを^をあ^あら^らふ^ふ人^{ひと}の^の代^{しろ}名^なの^の末^{すえ}代^{だい}碗^{わん}久^く紀^き文^{ぶん}の^の名^な
ハ^ハ高^{たか}し^し。と^と暮^くら^らふ^ふぬ^ぬ放^{はな}蕩^{たう}の^のと^と暮^くら^らふ^ふて^て生^{せい}涯^げ曉^{あけ}ら^らぬ^ぬも^も世^よの^の折^{せり}ふ^ふあり^り
と^とあ^あら^らふ^ふ。過^{あや}て^て改^{あら}む^む小^こ憚^{たへ}る^る工^{こう}も^もあ^あら^らふ^ふの^のと^と。その^{その}過^{あや}を^をま^まり^りつ^つも^も負^{おと}惜^{じやく}を^を理^り
と^と非^ひふ^ふ曲^{まが}け^けか^かぬ^ぬ名^なと^と求^{もと}む^む。大^{おほ}申^{まを}か^から^らふ^ふと^と同^{どう}日^{じつ}の^の論^{ろん}も^もあ^あら^らふ^ふ。凡^{おほ}夫^{おと}と^とい^いふ



大莫乃國樂

直目公六衛後編卷四



建徳の國樂

夢村公六衛後編卷四

十一

耳。寡慾しよくしやうて情ぢやうは違ちがひがで。かるかるるなよ。吾わをを行いくくとも。忘わしららふふかかてて。思し
 せせとも。願ねがははるるかかてて。人ひとのころろををとと憤いらいぶぶ名なのなををせせぶぶとと恨うらまませせぶ。
 俟まちてて来きてて来きててととあありり。楽らくををたたりりてて。夫おののの智ち者しや。水みづとと樂らくとと
 仁にん者しや。山やまとと水みづとと。其その樂らくのの字じ義ぎ解げ。若わかしし。源みな若わかののどどくくとと死しハハその。
 義ぎにに通つうじじととああるる人ひとののひひりり。実じつ知ち者しやハハ事じ理り小せう通つう達たつ。若わかののどどくくとと死しハハその。
 若わかくく通つうじじととああるる人ひとののひひりり。実じつ知ち者しやハハ事じ理り小せう通つう達たつ。若わかののどどくくとと死しハハその。
 遷うつららばば。若わかくく通つうじじととああるる人ひとののひひりり。実じつ知ち者しやハハ事じ理り小せう通つう達たつ。若わかののどどくくとと死しハハその。
 若わかくく通つうじじととああるる人ひとののひひりり。実じつ知ち者しやハハ事じ理り小せう通つう達たつ。若わかののどどくくとと死しハハその。
 若わかくく通つうじじととああるる人ひとののひひりり。実じつ知ち者しやハハ事じ理り小せう通つう達たつ。若わかののどどくくとと死しハハその。

情ぢやうののちちりりけけ所しよみみくく。これこれよりより求もとむむ小せうありりざざればれば。手てのの目めはは動どうきき足あしのの目めはは
 運うんびび臍せきのの目め小せう静しやうなるなる。ことこととといいはは倦うたたしし。若わかくく通つうじじととああるる人ひとののひひりり。実じつ知ち者しやハハ事じ理り小せう通つう達たつ。若わかののどどくくとと死しハハその。
 若わかくく通つうじじととああるる人ひとののひひりり。実じつ知ち者しやハハ事じ理り小せう通つう達たつ。若わかののどどくくとと死しハハその。
 若わかくく通つうじじととああるる人ひとののひひりり。実じつ知ち者しやハハ事じ理り小せう通つう達たつ。若わかののどどくくとと死しハハその。
 若わかくく通つうじじととああるる人ひとののひひりり。実じつ知ち者しやハハ事じ理り小せう通つう達たつ。若わかののどどくくとと死しハハその。
 若わかくく通つうじじととああるる人ひとののひひりり。実じつ知ち者しやハハ事じ理り小せう通つう達たつ。若わかののどどくくとと死しハハその。
 若わかくく通つうじじととああるる人ひとののひひりり。実じつ知ち者しやハハ事じ理り小せう通つう達たつ。若わかののどどくくとと死しハハその。
 若わかくく通つうじじととああるる人ひとののひひりり。実じつ知ち者しやハハ事じ理り小せう通つう達たつ。若わかののどどくくとと死しハハその。

古家八千代後編卷四

十一

て。これふかしのりありと云ふ。夫論辨小巧あり。蘇秦張儀も此の
 る。彼ホ六箇國を遊説して一旦富貴を極められども。徳もあつて稱する
 りのみ。その西雄の鬼谷子と師といひ鬼谷子の縦横家あり。原黄老より
 出で黄老と評有と。よく老子の一書と説ひるめり。その文子と莊子
 の。ついで莊周の老聃の骨髓と撰て孔子をさしむとも。又等閑ありと。
 その書は我より説叙の篇へ説客のついでに莊子の意よりあふ。又盜跖
 漁父の篇より。孔子を説くが。これ後人の附増と云ふ。東坡もこれ
 そのよと唱ふる。莊子の舊五十三篇あり。郭象が注する。その疑はれ
 りのを刪去して今僅に二十六篇存すと云ふ。まづこれとも。その説叙盜跖漁父
 ホの諸篇あり。列子の莊子小先と云ふ。鄭穆公の時とあはれ。と云
 といふ。まづ此とを稱せり。その書八篇大抵莊子尸子。韓非子と相似り。

呂覽淮南子の諸道家又老子の皮肉を撰する。呂不韋の秦の劇病
 と攻淮南の時と排る。小節亡諱忌の辞をりて。まづ老莊の本つくと云
 ども。終ふその骨髓を説く。故に言と行ひと齟齬して。或は奸邪不逞く。
 或は反逆を謀り。呂不韋の薬を仰て死す。淮南王の誅せらる。李斯と韓
 非とその師と共に死す。韓非は李斯に殺され。李斯は又趙高に殺され
 る。刑罰よく思ふ。死かある。悪を佐て國を亡し人を殺して。自と殺す。豈
 誠ぞらんや。李斯が始皇小まじく。乞て書と燔儒を坑せし。老子をまじく
 是れはる。老子小民を愚ふと云ふ。自は小因。是といふ。そのや書と燔
 儒を坑して民を文盲おせんと云ふ。政を為小國と云ふ。罪あるを殺す。と
 ついで老子の本意あらんや。かるる。秦は亡び。凡道家
 の辨あつて論義あり。儒教の論義あつて辨あり。且道家の辨は病乃能

書ふ似て方角とも。薬種を求めず。是極めて人間。仍ひくたつて。これ
ハ儒の(こと)を(用)の(り)と(は)只(草)野(の)士(よ)く(流)て(愛)情(を)断(煩)悩(を)
退(け)面(く)天(窓)の(蠅)を(拂)ふ(す)で(こ)と(道)を(天)下(に)布(施)さ(と)も(人)間(に)用(ひ)
(か)じ(あ)る(る)唐(山)残(國)の(時)に(う)り(辨)説(の)士(ハ)老(莊)に(因)て(刺)刺(を)る(と)し。
方(士)に(又)幻(術)と(り)て(人)君(を)迷(せ)種(よ)世(俗)遂(に)老(莊)の(本)意(を)失(へ)る(を)
曉(す)以(て)老(莊)の(書)を(西)云(気)を(乘)る(ん)とい(ふ)る(と)と(見)く(実)に(仙)人(に)あ(る)ま(は)
雲(よ)に(乗)る(る)り(の)と(こ)ろ(に)は(る)る(も)あ(る)あ(や)鳥(の)飛(行)す(る)ハ(翼)あ(ま)は(ら)る(。
あ(る)れ(ど)も(雲)の(上)に(あ)り(と)す(と)を(穿)く(人)に(ハ)翼(あ)る(と)は(翼)の(け)を(飛)
(せ)ん(と)い(つ)て(る)も(小)る(へ)と(且)雲(ハ)氣(を)る(る)海(煙)の(如)く(形)あ(る)り(の)と(れ)は(學)ぶ
(べ)し(ら)の(その)寓(言)の(る)と(推)て(ま)る(べ)し(あ)る(る)周(穆)王(秦)始(皇)漢(武)帝。
唐(玄)宗(皇)帝(も)と(さ)る(と)既(に)天(子)に(れ)ば(老)の(お)よ(い)ら(ん)と(を)悲(し)長

生(し)て(飲)楽(を)し(つ)つ(と)も(極)め(ん)と(多)く(大)慈(起)り(不)覺(に)黃(老)の(説)を(信)用(し)て。
方(士)の(為)小(魁)と(れ)或(ハ)蓬(萊)小(仙)丹(を)求(む)或(ハ)西(王)母(と)恋(し)ぐ(種)々
の(阿)房(を)つ(と)と(れ)と(道)と(黃)帝(以)降(天)子(の)仙(人)に(あ)る(と)と(原)來(嗜)慾(の)
為(に)庶(幾)ふ(仙)藥(を)れ(命)と(縮)め(國)を(滅)す(毒)茶(と)る(て)世(の)胡(亂)を
送(さ)れ(ら)る(と)を(隱)逸(に)托(は)さ(る)り(の)に(う)り(仙)葉(を)求(め)山(林)を(慕)ふ
べ(こ)世(と)金(馬)門(小)避(る)と(ハ)東(方)朔(に)う(り)る(ふ)あ(ら)ば(也)先(生)既(に)老(莊)
の(口)を(ね)さ(る)と(を)好(む)又(と)り(く)儒(仙)と(す)か(え)て(辨)説(を)逞(く)物(を)通(ふ)と
り(て)氣(の)葉(を)う(と)と(多)く(始)皇(漢)武(乃)仙(丹)を(求)む(が)為(に)毒(を)後(世)に(流)
(と)ま(ら)ざる(ふ)似(く)る(世)に(老)莊(に)學(ぶ)べ(し)只(老)莊(に)似(ひ)か(じ)道(家)の(説)
(と)甘(む)る(り)の(お)の(が)天(窓)の(蜂)を(拂)ふ(は)う(他)の(天)窓(の)蜂(を)拂)んと(さ)る
(と)れ(ハ)その(人)に(れ)を(鞭)と(お)り(ひ)て(却)と(道)を(怨)る(ん)既(に)その(言)の(用)ひ(ら)れ

ぶるとまうらゝるがら。口と酸とるのあぢ。まうらゝるあぢと迷ひてまづうら曉れ
 めのぬく迷ひど。おのが愚とあるめいの究めて愚るのらび先生ゆま
 その一人ふて惑ひてまづうら情のめ。うつてその辨百發百中せどと
 りふとも。童蒙小益ゆぐ。情のその才の情ふするあよ生涯と老莊一
 とよされて世の狼狽めのとあひる。いと軋べとよふと。萬巻の書と読て。
 萬里ふ往還せんとい丈夫の形ふ所るまど。遠く又母の團と去て求て
 危とあめるの君子のせざる所る。よその一條の論辨ハ。る先生の為ふ
 いふの。かる陳奮濛藉とまど。うまじて童蒙婦女子ふ退屈とせん。朕ゆ
 人情小疎とふゆ。れば今ハ。よの程ゆ。そ口を辨む。飲乐御の國王
 ハ。脣とまじて。べらくと口とく。身と性質のりる。んと。笑ふめ。の。為ふ
 ハ。こまゆ又。用の辨る。現練言ハ耳ふ逆ひ良茶ハ口ふ苦。岡目八目

くれも。他の善悪ハ。るめ。まど。口と。善悪の。んえ。る。七九の。灸。よ。兵
 ろ。ね。バ。コ。ガ。う。と。と。る。夏。も。人。お。何。ま。り。ん。ご。ま。の。儒。教。と。道。家。の。説。
 の。用。捨。と。い。ま。う。ま。る。の。ま。ご。ま。う。外。あ。道。も。り。先生。老。莊。の。説。と。樂
 と。る。ま。び。ま。う。老。莊。の。室。ふ。坐。し。て。う。と。ま。何。有。の。御。ふ。拈。ぶ。自。然。の。楽。を
 を。ま。の。い。ど。一。朕。今。徐。福。が。舟。せ。り。て。日。本。國。へ。送。る。べ。け。は。バ。オ。平。く。破。り
 少。と。い。と。る。あ。ぐ。く。一。紀。勅。命。ふ。委。兵。衛。の。感。服。し。て。浹。坐。ふ。拭。ひ。あ。む。と。お。ま。く
 ま。う。は。や。う。勅。徒。宅。は。有。ら。ず。と。承。知。ま。で。身。ふ。あ。ま。れ。と。某。の。を。下。め。拈。摩。を
 必。ひ。と。ら。し。る。と。れ。浦。島。仙。人。の。教。ふ。う。つ。て。飛。舟。自。在。る。紙。老。鶴。を。獲。て。少
 バ。萬。里。の。往。還。し。と。易。し。舟。車。と。の。り。ふ。及。び。ゆ。い。と。と。推。辞。し。る。が。飲。乐。王
 くる。ね。て。先生。既。ふ。その。紙。老。鶴。を。獲。て。飛。舟。自。在。と。い。と。と。つ。る。る。ゆ。ま。と
 ま。う。し。る。紙。老。鶴。ハ。今。何。れ。あ。る。と。ら。め。と。は。と。宣。へ。ば。委。兵。衛。亦。や。う。と。

ち。何の友とあはれざん。班翰が雲梯墨翟が飛ぶも異るらば。
 夢に必飛ゆ。又降るといふと死。この身をたもらし。彼へそのま。虚空
 小沖のい。あつるふ一旦を慾國とす。件の紙を失ひが。貪婪國とす
 ちを獲る。さまじし由ぬ。國王呵々笑せのひ物おのく
 沿るうといふとも。又必失ふ時あり。加以その紙をゆく飛ゆ。そが
 身をたもらしとす。これ又乗るへ究めく危し。枉て水行り歸り
 ゆと可憐ふ仰とす。憂愁兵衛へ。何推辭て従ひな。既
 駁の國を絶えど危しともいひ。いざい今さら可憐紙を捨て舟よ
 んへ却危し。只のちふぬじのり。とまうせ。あふへは流るはば
 とく。有司ふ仰て憂愁兵衛と客館ふ休足さ。こを歎待。物駁賜る
 へさうと笑え。あふふ憂愁兵衛へ。こも固辞をうて。あふの暇を

乞既小羅り物ととると。めて仰ぎ。彼國王の面影は。浦
 仙人ふ仇と。疑ひ惑ひ。原来へ。飲楽御の世ふ。蓬萊山
 ちて飲楽王の別人。浦島翁の。又教諭のふ。と推量
 且ても。堂上堂下。小諸司百官袖と。なれば。同ふ。あふ。
 官人亦不送。王城と。出け。舊の如く。彼官人亦。あふ。
 さる。憂愁兵衛の。飲楽王。教諭。あふ。悲戀。國王の百
 新の。浦島ふ。仇と。あふ。浅。あふ。鈍。あふ。あふ。忽地。矢の。
 連。日本へ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。
 何如。由。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。
 と。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。
 今。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。あふ。



高橋忠兵衛行状記 卷四



むさしひやう

高橋忠兵衛行状記 卷四

本目
或ハ本牧
不似不
藤余志
不本目
能るかる
出逢る
仲るの
目めよ

列子巻
三周摺
王竹篇第
十一張

兵馬ハ忙しく。受やんとする。水開へ落せしむ。紙をハ忽地ふる。濡まで。
糊たる紙破きて。骨ハ水底へ沈み。ふけむ。堪忍の二字を説て。人を論世
後。兵馬も。名ハ翼。つら。為。命の綱と。憑。紙を破られ
る。の。形。失。進退。究。握。固。左
巻と共に。怒。揮。前。童子の。打。打
打。身。水開へ。逆。小。入。改。打
碎。声。苦。叫。困。中。死。見。南。一。
愕。然。全。冷。汗。神。奈。川。本。同。の。漁。舟。の
中。小。枕。小。身。起。
汗。拭。遥。西。入。目。果。身。半。日。舟
小。睡。更。数。年。行。如。不。思。議。とい。舟。半。日。舟

や。それ。か。り。諸。子。百。家。の。書。と。読。し。と。只。雜。学。小。の。と。
と。て。遂。に。聖。人。の。大。道。と。極。め。と。只。言。ハ。辨。説。を。好。め。バ。軟。世。ハ。厭。む。と。の
持。上。の。風。波。と。遊。ん。と。不。覺。ハ。妄。想。を。発。せ。し。紙。老。給。小。子
て。名。と。ま。づ。ぬ。團。と。拈。牛。其。の。團。俗。と。舌。残。と。好。む。身。と。教。せ
る。者。れ。と。教。言。め。人。と。教。む。小。足。ぬ。正。と。可。る。や。亦。愛。む。ん
ぞ。可。る。らん。や。出。せ。し。唐。山。鄭。國。の。野。ハ。菘。と。取。り。の
わ。り。走。る。鹿。と。逆。て。驚。く。人。の。人。と。を。お。そ。れ。て。遠。て
隍。の中。小。菘。ハ。菘。と。上。又。覆。ひ。つ。喜。ハ。正。限。り。か。て。又。菘。と。さ。る。小。俄。は。て
その。世。外。と。非。と。迷。ふ。疑。ひ。惑。ひ。て。遂。に。亦。正。と。愛。む。と。さ。ひ。ハ。只
その。と。び。つ。て。ま。ぬ。小。側。小。正。と。愛。む。の。ゆ。え。その。言。ハ。因。て。菘。と。さ。る。菘。と。索
て。これ。と。取。ぬ。と。家。の。ゆ。え。と。その。室。人。の。向。菘。と。さ。る。の。が。菘。と。さ。る

其の生物と与む。又碎ぶるのたとふどり。老は生物と食せ。碎ぶるのたとふ
 且ハ餓ると云ふ。忽ち地は人と食んとするを獲るといふ。夫虎の人と異なり。虎の
 養ふのの媚の順る。友よと云ふと殺すの逆也。今これ由きた。五味の賢
 才不感服するの順に故もその非と攻むの逆なり。只古人の金言を切ぬたて少
 つとと云ふ。養虎の法は做らざれば危し。又竟に食するん誠と人よ及むと云ふ。
 順逆の理と云ふ。されば危し。又三戒の法を守りて慎む。言
 るのり。と云ふ。く。嘘つて直と舟と漕久し。次の日より草紙を綴り起す。
 爰こころ。胡蝶の形勢はさるなり。自他の論辨を知らむ。編次て九卷中。
 胡蝶物語と号する。さるなり。枕の友と云ふの。人よの絶てるとを許さざれば。
 かくて又と云ふ。胡蝶物語の荒唐をその辞の。俗より。と云ふ。
 君子は呈る。さるなり。身よめて。又世俗は呈る。人情は情けり。と云ふ。

又取べらば。さるなり。又と云ふ。女子童蒙は口舌が難解。と云ふ。
 巻を掩つ。夫君子の為に取らざれば。又世俗も厭て女子童蒙は捨
 られる。実はこれ。舟の舟。且これを惜む。夫。彼宋の陽里の。
 華子が忘る。夫。草紙を裂捨て。世は傳ふ。と云ふ。と云ふ。
 猶も敗簾の底を搜る。小件の草紙は。と怪する。と云ふ。これを
 さるなり。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。
 湯が彼紀行を繕ると。其某甲側ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。
 夫。その鏡を飲ぶ。稿果。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。
 夫。その鏡の底を掘り。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。
 夫。其が家ふる。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。
 書の世は出て。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。

世説新語卷四

列子卷
一天瑞
篇第十
九張科
之因氏
大富云

○總評

聖賢の遺書とてあつてその緒を喜とすとも。いふまでその道とまら
ざるのハ遂に殃を惹きまうり。登巴むじ齊の國氏といふのありて大に
家富するやう。又宋國の向氏といふのありてその家究て多うう死
うてまづうら齊にありてその術を請求めうが國氏こそ告ていやう。
これハうく決意とすものをもとめこれ盗とくするふ一年あつて口を糊はまり。
二年あつて物をうらうらば三年あつて野あまうあり。言下はうて口が州
小龍といふ向氏はてあつて喜びその盗とす言を喻てその盗とす道
を喻らむやうて汝卿と垣と踰室と鑿目のるふ子の乃るふ探とす
正るはういふまじも。盜とく事願は賊は似るの罪をひらう。されば
その罪を購ん為ふ先祖相傳の田圃居宅を失ひ死うてあつて齊

ふめていつく國氏を怨へく國氏ハその教をばて嘆息。あん身が盜
とくする正。その道はうらうらうらうら。今審よらうと
告ん。天よ時あり。地よ利あり。口が盜とるはは。世の賊ともはらう。これ未
と殖てこれを鬻。又獸と獵。又魚を取て。口が鬻。かくのうく。家富と
さうふ。口が天地。西家の潤澤を盜と。又山沢の産を盗と。竹木を伐て
垣と築室と建陸。又禽獸を盜と。水ハ魚を盜と。口が有とまらう。
正抑盜。あつて何ぞや。夫米苗竹木。禽獸魚鱉。ハ。天の賜。
所ありて。口が有。あつて。口が有。あつて。口が有。これ盜む
と。いふ。口が。造化の功を盜むと。公道るれば殃あり。亦米穀
金錢珠玉。衣裳雜具。ふ至て。人こそを。人又これを聚む。これ
人能のみの。口が天の。あつて。あつて。あつて。私慾を。口が

古事目録 新編 卷之四

と盗人と志すべし。まじりて罪をゆる。かくての孰とる怨んやと。しる
 正とせよべし。理義ハ自我の理義ありて聖人の私ハ。ゆるり殺しつるふあり
 その理義ありて理義を説く。又も又自我の理あり。既ハ自我の理義
 を次とて。コト有と。遂ハ童蒙と喻と。死ハ寓言と。しる。これ
 て罪ありと推て。爵禄富貴ハ人にして。天の賜あり。のよあり
 賊臣勢ハふりて。位と義と。便仕ありて富とを盜と。ことと。コト有と
 する。されと。その罪の脱まが死と。拒りま。するのあらん。但人作
 人巧を盗とて。まづ。その罪と。ま。するのあり。病愈て医師又
 業礼せざるの。人ハ物學びて。酬謝の礼るあり。古歌新句と盜と。
 コト有と。するの。人ハ借りて。コト有と。するの。人の詩文章書画を乞
 て奪ひ取るの。古人の偽書と。利を射るの。ま。是天のよ。ま。あり。

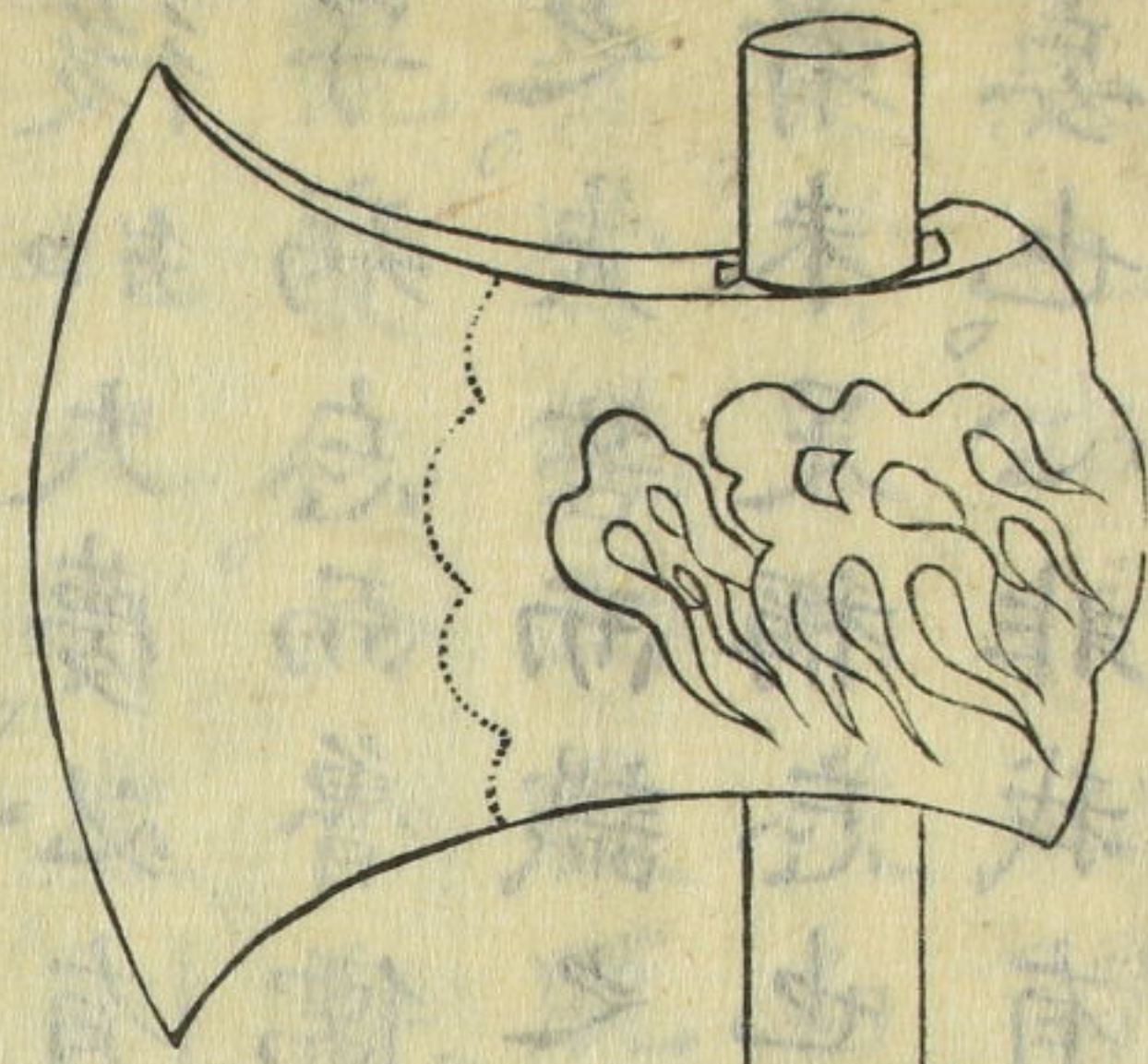
或ハ人情ハ。或ハ公道ハ。ゆる。小。よ。て。竟又。曉。するの。これ。を。罪。は
 と。い。ふ。と。い。ふ。も。天。の。賜。ま。る。花。と。盜。と。て。コト。有。と。する。の。あら。して。罪。る。あり。あ。ら。う。と。て。
 所。が。中。小。説。と。似。り。の。ハ。盜。と。又。ま。る。古。今。興。敗。聖。王。賢。臣。義。士。孝
 女。烈。女。の。跡。鬼。神。老。仙。の。垂。蹟。古。語。舊。説。悉。皆。これ。を。次。と。て。コト。有。と。する。の。
 上。マ。く。ハ。これ。を。愛。小。托。と。既。又。の。書。小。述。亦。是。愛。と。の。い。ふ。と。死。ハ。今
 コト。批評。する。由。愛。と。その。愛。を。愛。や。て。園。する。の。も。又。夢。あり。人。我。一
 切。夢。あり。て。その。愛。と。ま。ま。ば。愛。の中。小。愛。を。て。面。前。又。愛。を。説。く。癡。る
 くる。癡。る。る。る。其。又。是。夢。あり。ま。ま。ま。ま。堂。夢。を。盗。ん。や。その。盜。と。盜
 ぶ。と。愛。る。ると。愛。る。と。と。ハ。ま。づ。学。ぶ。の。これ。を。辨。ト。よく。ま。る。

夢想兵衛胡蝶物語後編卷之四大尾

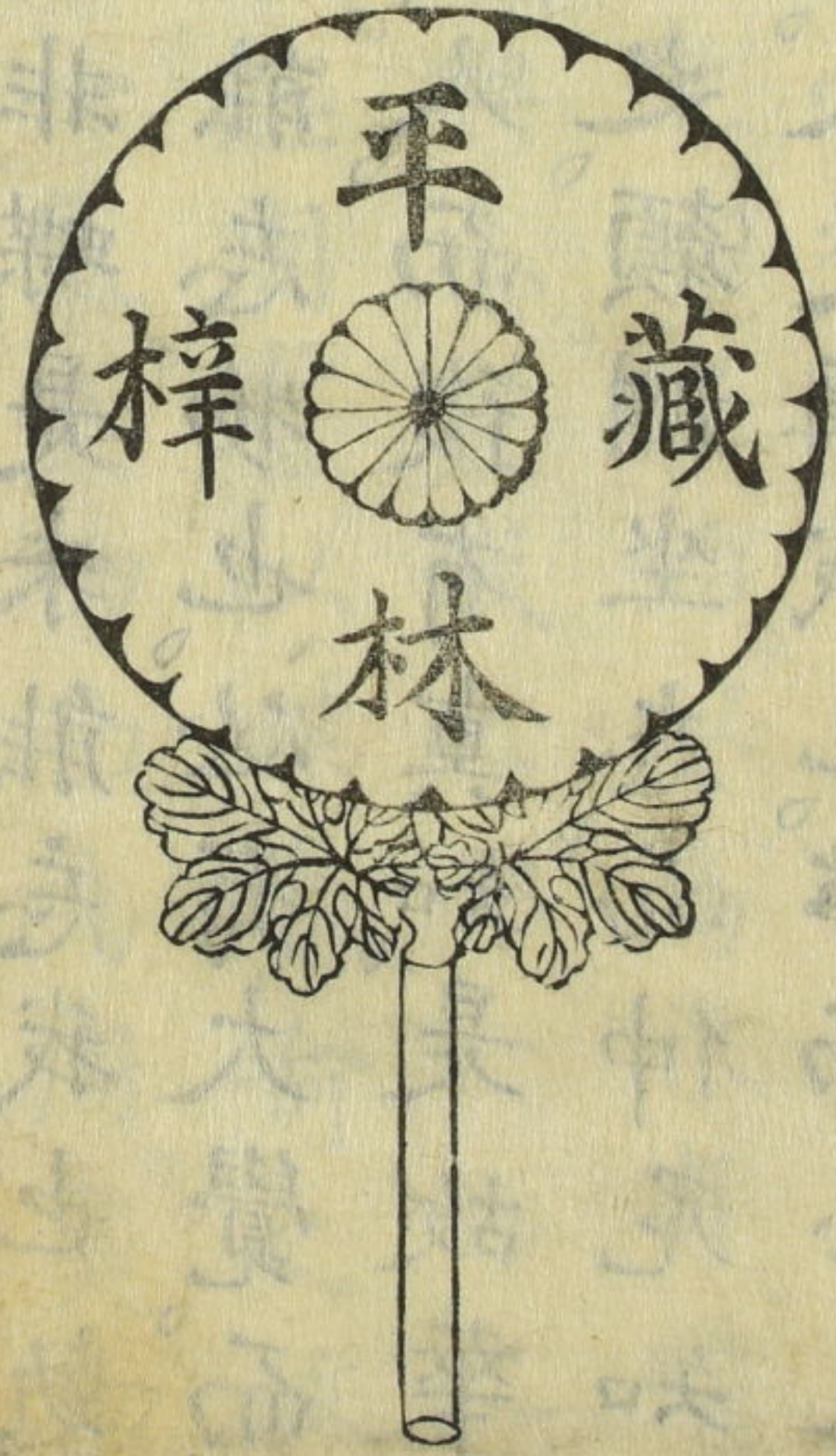
予自髫歲愛讀書。而善記焉。及壯年耽著
作。而皆忘焉。今知之矣。我識也。非我性。我
忘也。非我心。習而記焉。勞而忘焉耳。人毛
髮皆黑。而後白。人眼目皆明。而後翳。人齒
牙皆銳。而後脫。人心神皆精。而後倦。設夫
觀變化於一身。則老幼終始。以為我有。順
一化之自虛。則識與忘。豈我心耶。一形之
開闔。一性之往來。莊周嘗以蝶夢喻之。故
曰。萬物同根。是非一氣。奚物而為周。奚物
而為蝶。認周以為非蝶。是未能忘我也。執
蝶以為非周。是未能忘物也。必有大覺。而
後知大夢。必有真人。而後有真知。是故華
子病忘。而魯儒治之。顏淵坐忘。而仲尼知
之。夫苦而識之者。未足稱識也。勞而忘之
者。未足稱忘也。一強一犯。竊々然而私之
妄也。心非我有。而作是書者。心耳。名非我
名。而命是書者。名耳。有乎無乎。我未能辨
焉。於是乎忘有無。庚午仲秋望。馬琴再識。



一柳齋豐廣画



全本前後九冊
文化庚午發市



賴豪阿闍梨怪鼠傳 前後十卷 曲亭馬琴作
葛飾北齋画

四天王剽盜異錄 前後十卷 曲亭馬琴作
歌川豊國画

うさふ安方忠義傳 前後八卷 山東京傳作
歌川豊國画

繪本淺間ヶ嶽 前後九卷 柳亭種彦作
蘭齋北嵩画

霜夜乃星 全五卷 柳亭種彦作
葛飾北齋画

荒川仁勇傳 前後十卷 爲永春水作
歌川國丸画

和漢軍書諸家隨筆貸本所 江兩國吉川町 中金堂釜屋又兵衛板

